

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2670600416 | | |
| 法人名 | ヤマト株式会社 | | |
| 事業所名 | ニンゲルの森北白川 | | |
| 所在地 | 京都市左京区浄土寺石橋町69番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年3月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年8月31日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に哲学の道があり、少し行けば、寺院がたくさんあります。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、散歩しながらでも、四季を贅沢に味わえる場所となっており、皆様外に散歩に行かれる事を毎日楽しみにされています。
 現在、力を入れて取り組んでいる事は、ご利用者の生活習慣の尊重や馴染みの場所や物に触れる機会をなるべく多く提供できるようにすることです。
 ご利用者の健康面を考え個別にリハビリを行い。施設のハード面を活かし生活リハビリを取り入れて健康で楽しく生活できる環境の提供をする事です。
 ご利用者・ご家族様との信頼関係を築き、ターミナルケアを支ええるチームで支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosyoCd=2670600416-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年7月21日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニンゲルの森北白川は、ヤマト株式会社の傘下として平成14年11月に開設されました。法人の介護の理念「個性豊かに私らしく」に沿い、北白川目標「尊厳と笑顔を大切に」掲げています。単年度計画では、ユニット目標や行動指針を明示して利用者の生活を支援しています。事業所内には階段や段差がありますが、生活リハビリテーションとらえて、自力での昇り降りを職員は補助しています。また、個別体操や隣接する哲学の道での四季を感じる散歩などを通して、体力の維持、増進に努めています。ボランティアの方の来所も定期的にあり、折り紙や音楽療法、お茶会、傾聴ボランティアとの会話など楽しんでいます。ターミナルケアは医師の往診体制があり、家族も付き添いをおこなうなど共に介護にあたり、職員は家族にも寄り添う支援をおこなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 自然・地域と統合した人間としての幸せな生活。を理念とし、実現化に向けて日々積み重ねている。理念の掲示(日誌・額への掲示)話し合いを行っている。カンファレンスの前に「理念」を踏まえた話等を導入し、会議等にも理念についての話を行っている。それに加え、事業所の職員と話し合い、事業所行動指針を作成し掲示している。 | 法人理念、北白川目標を踏まえて、ユニット目標「私たちは、ケアの質の維持継続に努め、更なる向上を目指します。・私たちは、細やかなケアと入居者様の思いを大切にします」と掲げ、行動指針、日常生活サービスの計画、運営計画を具体的に表記している。朝礼時や毎日のカンファレンス時、職員会議で振り返りをして、特に利用者個々の尊厳に配慮している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の隣人との挨拶・お散歩されている方への声かけを行うよう努めている。来年度には、町内会組長として、行事のお手伝い・参加をさせていただく予定である。施設の行事には地域のお店で外食やお食事を取らせていただいている。季節の行事には、ボランティア様も参加していただいている。掲示板を作成して地域の方にイベントの参加・ボランティア様の募集をおこない、折り紙教室等のイベントに地域の方参加していただいている。地域ケア会議への参加。近隣の中学校の認知症サポーター養成講習のお手伝いさせていただいた。 | 町内の組長役が3年ごとに回ってくる。運動会や地蔵盆に職員は手伝いに行き、利用者も参加している。職員は、地域の方からの依頼で近隣の中学校に出向き「認知症サポーター養成講座」の講師を務めている。事業所でおこなう夏祭りは、家族や地域の人(掲示板で告知)の参加がある。音楽療法、折り紙、お茶会、傾聴ボランティアの来訪は定期的であり、折り紙には地域の方や家族も参加している。日々の散歩を含み地域の人々との交流は多い。職員は地域ケア会議に参加し地域情報を得ている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて話す機会を設けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 本会議・ミーティング等において、イベント時の相談を行ない家族様の意見を反映している。参加者の方に分かりやすくするために、写真、動画などで報告している。 | 会議の参加者は、地域包括支援センター職員、家族2~4名、職員である。町内会長の出席は頻度は少ないがある。会議では入居状況、利用者の様子、人員配置、ヒヤリ、ハットや事故報告、感染症、苦情の報告をしている。家族から介護支援やイベントへの協力に発言がある。会議への案内は全家族に送付しているが、議事録は全家族には送付できていない。 | 地域代表メンバーの参加が少ない。幅広い分野(民生委員、老人会、婦人会、区社協など)から、情報や意見を求めるために参加を依頼されたらいかがでしょうか。また、議事録の送付は全家族に送られることを望む。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 要介護認定の申請の際への窓口訪問。地域の方々とは勿論の事、消防・警察・役所等への理解と協力を更に深めていきたい。 | 介護認定の更新申請、運営推進会議の議事録、外部評価の報告書などを提出する機会を捉えて、相談のできる関係にあり協力関係は築いている。「左京区事業者連絡協議会」、「地域ケア会議」に参加して情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。社内研修については、毎年継続的に実施している。 | 法人で「虐待防止委員会」を開催し、その中で身体拘束に関する話し合いもおこなっている。職員の自己チェックシート(接遇、身体拘束、虐待、認知症ケア、衛生管理、身だしなみ、言葉づかい)があり、集計後各事業所に報告がくる。職員は委員として出席して報告をしている。報告を受けての職員間の話し合いはできていない。法人研修と共に、事業所では各種マニュアルを教本に身体拘束禁止、高齢者虐待防止、接遇研修をおこなっている。 | 当事業所職員は、離職率が低く介護経験を積んだ方が多い。法人の虐待防止委員会の報告時を、当事業所での「虐待防止委員会」と位置づけ、話し合いをおこなわれてはどうか。議事録を作成して、職員の知識や経験、知恵をだした提案を、法人会議に提出していかれることを期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。 年2回の研修を行う。 法人内にて虐待防止委員会を設置して、各事業所とも意見交換・マニュアルの見直し等行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度についてのセミナー参加を検討。また、現在成年後見人制度対象者について入所時等に勧めるよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行えるよう、また、質問等を行える時間を設けるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置。 「ご意見・ご要望用紙」の説明と意見箱の設置を運営推進会議にて説明する。 課題については運営推進会議にて報告する。 | 利用者からは日常生活の会話から、諸要望を聞き取っており、献立や外出支援で希望を叶えている。家族には意見箱の設置を知らせているが、ほとんど入っていない。面会時や運営推進会議で意向確認をおこなっている。「部屋の電気がくらい」「ノックの仕方」に注意があり、照明をかえたり、ノックの仕方を統一した。少人数の利用者であり、アンケートは実施していない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常時、受け付けており、また会議・ミーティング・職員間の報告ノートにて、よりよいサービスへの意見や提案を具現化する機会を作るよう努めている。 職員面談の実施(年2回実施) | 管理者は年2回、職員の「自己評価表」をもとに個人面接をおこない、意見や要望も聞いている。また、ミーティング時や職員会議でも聞き取っている。車椅子対応の軽自動車や玄関前の段差や傾斜を補うスロープ板の要望があり、法人より届いている。3階事務所に社長、所長宛の意見箱が設置しており、職員の利用がある。管理者は、諸事案に対して速やかに改善策を講じ、解決に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課により、各職員の評価や努力、勤務状況や業務内容を運営者に管理者が報告を行い、把握に努めている。 評価する機会を設け、各職員に向上心を持ってもらえるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新任職員は研修計画に沿って、基本的なことを教えている。定期的に、認知症ケア、パーソンセンタードケア等の専門的な内容から、虐待防止や感染防止等についての基本的なことも研修している。 職員面談を年2回実施して、職員の仕事に対するやりがい等を話す機会を持つ。 職員に対してアンケートを実施し、職場環境を改善できるように意見できる機会を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業施設(グループホーム)との見学・意見交換の受け入れ、また他同業者(他サービス事業者)の見学を受け入れている。 音楽療法士様による音楽演奏会も行う。 法人にて同業者職員・地域包括の方をお招きして事例検討発表会を開催し勉強会を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式を取り入れ、利用者・家族からの聴取に努めている。ただし、入居時の質問事項の細分化は行っており、ニーズを収集する時間（見学と、利用前の利用者宅及び入所施設の訪問）を設けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学時、グループホームとはどんなサービスなのかという説明と家族が抱える問題点や不安感を聴く時間と答える時間をもうけている。入所に対する不安は、ケースによりグループホームでどのような介護が行えるか例をあげたりすることで、利用が難しいと考える家族に対しても、グループホームの可能性について話すよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | そのケースによるが、状況次第では、他のサービスについての説明を行うこと、利用者の現在必要としているサービスは何なのかというサービスの抽出への助言について話し合いを行う時間をもうけている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と利用者の方が一緒に生活できる機会を作るように努めている。買い物と一緒にいって、調理を共に行い、ご自分で好きな量を配膳して頂き、食器を洗い、片付ける。と食事というキーワードだけでもこれだけの事があり、出来る事はやって頂き、職員が「ありがとう」と言う関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | イベントについては複数の家族が参加できるような促しや、イベントでもなるべくご家族とご利用の方が一緒に出来るような事を取り入れ、共に喜んで頂ける機会の提供。一人のご利用者の方に対して、複数のご家族が参加しやすい環境を提供する。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人にも、施設の行事案内や近況報告をお送りしている。 馴染みについては、我々としても大切にしたいと考えている。場所等については、希望があれば、お連れしたり、ご家族に願いするようにしている。実際に馴染みの方と関係を継続されている方もおられ、その関係を大切にしていきたいと思っている。 | 近隣から来られた利用者にとっては、哲学の道での日々の散歩は馴染みの場所である。教師をしていた利用者に教え子の訪問があり、教え子に近況報告を送り、関係の継続を支援した事例がある。お気に入りの美容院へ通っている方、仏壇のお世話をしている方など、利用者に寄り添っている。定期的に訪れるボランティアの方とは、馴染みの関係が生まれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | コミュニケーションが難しい方については、職員が関わるようにしている。洗濯物を皆で協力してたたんだり、外周りの掃除も同じように協力して実施できる環境を提供している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所時及び退所後の支援・相談の対応を行うよう努めている。 お手紙を送ったりする事により、つきあいを大切にするように努めている。利用者退所後の家族の電話・来園時の協力についての説明。 また、利用者外でも相談者(元見学者等)への相談は随時行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | なるべく、ご本人の言葉(希望・不満等)を汲み取れるよう努めている。その内容をケアプランに反映したり、ご家族構成や生活習慣を記録としている。 | 初回面談で利用者(家族)から生活歴や趣味、医療情報も含めて、心身の状況及び入居後の希望を聞きアセスメントシートに記録している。現在、意思表示できない方はいない。趣味の継続を希望する方は多い。「カラオケ、ギター演奏、ゴルフ、花を育てる」など、できる範囲で継続できるように、日々のレクリエーション活動に取り入れ「その人らしさ」を発揮している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を取り入れることで把握に努めている。 また、毎月モニタリングを実施しており、日常の変化を検討し、経過の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に反映できるよう努めている。 | | |
| | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族のご希望や意向を踏まえてケアプランを作成し、基本的には毎月カンファレンスを実施している。また、日々の生活の中でご本人やご家族の意向を反映している。基本的に、チームで話し合いケアプランを作成しており、今後も継続して実施していきたい | 日々の支援経過記録を基に毎月モニタリングをおこない、モニタリング表に記録している。同時に計画見直しもしている。サービス担当者会議は6か月ごとと、状態変化時におこない利用者や家族の参加を得ている。1つの介護課題に多数の目標設定があるが、少し整理されると見やすくなるのではないかと。また、サービス内容はカンファレンスで検討した内容を具体的に表記するなど充実を期待する。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録用紙の中にも、センター方式の内容を反映させ、ご利用者の方の言葉、表情等を記録している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の習慣に合わせて、毎朝地藏参りにお連れしたり、喫茶店に行かれています。ボランティア様来園時にお花の会を開催していただいている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 資源マップの作成。近くのスーパー、薬局、喫茶店、本屋、和菓子屋等、ご本人の趣味、嗜好に合わせて、利用している。ご本人の趣味や習慣を伺い、必要に応じボランティア様に来て頂いたりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療の自由は尊重し、今までのかかりつけ医を大切にいただいている。また現在、当施設の主治医についてもご理解いただけるよう、間に入り説明及び協力を努めている。 | 利用者は現在全員が、協力医療機関をかかりつけ医として訪問診療を受けている。かかりつけ医は24時間体制での往診対応があり、電話での相談もできる。看護師も短時間勤務で在席しており、勤務時間外の相談も受けている。歯科医や歯科衛生士の訪問診療もある。緊急時は医師や看護師の指示で対応し、職員の応援体制も整えている。協力医療機関以外の受診は家族の協力を得ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当施設看護職及び主治医との話し合いを密に行うよう努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院に関しての受け入れ体制、の報告・情報交換。家族への対応についての相談援助に努めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケアについて看取りについての指針・体制を作成している。 終末期には、家族様・チームで支援に取り組んでいる。 | 入居時に利用者(家族)に「看取りに関する指針」に沿って説明して理解を得ている。利用者のターミナル期が予想される時は、医師から家族への説明があり、管理者は随時家族と詳細な話し合いをしている。事業所内での看取り希望は多い。家族は点滴時の付き添いや希望で泊まるなど介護を職員と共におこなっている。家族に見守られ眠るように人生を全うしていかれる。職員は、5年以上の経験者が多く看取りの経験は積んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、またマニュアルにより事故防止策を講じている。連絡網(緊急連絡先)の準備と対策マニュアルの作成。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練(避難誘導・初期消火訓練)を利用者参加のもと、年2回以上実施している。運営推進会議等でも避難訓練をすることを地域の方にも伝えるようにしている。事業所間の協力体制の強化の為災害対策委員会の設置をしている。 | 法人で「災害対策委員会」が設置しており、マニュアルは作成している。年2回防災訓練を実施し、1回は消防署立ち合いのもと初期消火や利用者や駐車場までの避難訓練をおこなっている。全員の避難に12分かかった。事前に掲示板で地域に防災訓練の告知をしているが、地域の方の参加は得られていない。地震や水害を想定した訓練もおこなっている。備蓄は水と食品、備品など3日分がある。 | 災害時は、少しでも多くの方の協力を得ることが必要である。防災訓練時に運営推進会議メンバーや地域住民の参加をお願いして、協力体制を構築していかれることを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全室個室対応。鍵をかけることは可能である。トイレについても鍵をかけることができるようになっている。言葉かけや対応については、カンファレンスや研修を行い、周知している。 | 法人の行動指針の一つに「入居者様の尊厳を守る為、丁寧に話し、丁寧に対応する」と明記している。事業所内で毎年接遇研修を組み、利用者の人格の尊重やプライバシーに配慮した介護方法(引継ぎ時には利用者に聞こえない音量や名前はアルファベットで呼ぶ、他の利用者前で「トイレにいきませんか」は言わない、ノックの仕方)などを統一している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自身での決断。選択できる声かけの促しに努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者本位の体制を大切にしている。 朝ごはんが遅い人や、就寝時間についても、生活習慣やご希望に合わせて対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望に合わせ、美容やマニキュアを塗るなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 基本の献立は、法人内の栄養士が作成した献立を基に実施している。 全利用者様に食事前には口腔体操を促し、食事を楽しくもらえるように支援を行っている。 買い物は週に2回程度で、天気の悪い日以外は、利用者の方と一緒にしている。調理の手伝い、片付け、配膳はご自分の好きな量を温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま提供できるよう努めている。 | 法人の管理栄養士が1か月の献立を作成している。食材も届く。しかし、利用者から希望が上がった時は献立を変更して希望を叶えている。職員に栄養士免許を取得し調理経験が豊かな方がおり、他の職員へアドバイスをしている。とても美味しい。利用者は包丁を使って参加～後片づけまで、出来ることで役割をもっている。外食や弁当をとり、目先を変えての楽しみも提供している。手作りおやつは週1～2回おこない、しそジュース、パンケーキは好評である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チェック表の作成・個別の対応についての把握により対応している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | MC（モーニングケア）・NC（ナイトケア）・歯科往診により対応している。 介護職員に対して歯科衛生士により、入居者の口腔ケアに係る技術的助言及び指導を受ける。 3回の食後に口腔ケアの支援を実施している | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターン表の作成やトイレの誘導の声かけにより対応している。ケースカンファレンスを通じて、おむつが必要かどうかの取り組みもしている。 日中は、全利用者様トイレでの排泄が出来るように支援している。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本として、誘導の言葉かけには自尊心を傷つけないように配慮している。 パットやリハビリパンツの使用は家族の了解を得ている。自立の方もおられるが、夜間のみポータブルトイレ使用の方もいる。下着の交換は全員毎日おこなって清潔に留意している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 予防の為に乳製品を提供したり、定期的に散歩を行う事により予防に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者が安心して入浴できる環境を提供している。 入浴できない日は、手浴・足浴を実施している。 | 今年度の事業所目標の「入浴について」の欄に「1対1で対応できる場と考え、コミュニケーションを図ります・入浴は楽しく快適に」と明記して癒しの時間を提供している。入浴は週2回を基本としているが、希望や状況を踏まえ柔軟に対応している。入浴を拒否される方には、「服が汚れているので変えましょう」などで誘導し、風呂という言葉は使わないよう統一している。職員に、入浴後髪に編み込みをしてもらい喜ばれている利用者がいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間の定めを押し付けず、自身の生活パターンに合わせている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 往診記録・受診記録の作成 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 居室の掃除や洗濯たたみ、水撒き、水やり、食器拭き等の家事は、ご本人の意向を伺い、分担できる範囲で実施している。買い物、ドライブ、地蔵参り、塗り絵、音楽レク、おやつ作り等、利用者の意向に沿って実施している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物が主となるが、外出については職員が共に出かける。家族へ利用者と共に外出してもらえ(散歩・外食・医療受診など)よう努めている。 | 玄関を出ると哲学の道がある。日々の散歩はこの道で、四季の変化を感じながらおこなっている。毎朝近くのお地蔵様通称「幸せ地蔵さん」に、2名の方がお参りしている。玄関前が急な斜面になっており、スロープ板が法人から届いた。介護士1人で安全に車椅子操作ができるようになった。また、車椅子対応車も届いた。大文字夜のドライブ、京都御所の梅、動物園、祇園祭など外食も兼ねて楽しんでいる。買物では少し遠いが業務スーパーへも車で出掛けている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人管理できる方については、自身で所持してもらい。難しい方の場合でも買い物時にお財布よりお金を出し清算していただくように援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、毎年賀状はご自身で書いてくださるか方の援助を行い家族様等に送っている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 環境整備に努めている。 居間については、カレンダー・時計及び季節感のあるものを設置している。 リビングは植物を設置して生活感を演出している。 今年度キッチンの改装工事、居室の改装等を行った。 地下は、運動できるスペースを作り、入居者様が使用できるようにしている。 | リビングは広くはないが、利用者が寄り添って穏やかに過ごせる場所になっている。利用者の貼り絵で作ったカレンダーがある。過度の装飾は異食につながる為おこなっていない。歌が好きな方が多く、裕次郎の歌を聞き、食事を作り、新聞を読む、パズルをするなど過ごす。夕食後は1階のロビーに仲良しの女性たちが集まり、たわいもない話で女子会が始まる。不快になるような音や臭いは感じられない。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ロビーの開放及び居室により自身の生活の確保に努めている。 ロビーに本・TVを配置してより寛げるよう工夫している。 季節感のあるものを設置。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力ご利用者及びご家族に委ねるよう努めている。 | 職員は「自宅で使っていたものを持参してください」と言っている。使い慣れた馴染みのテーブル、椅子、整理タンスなど、持ち込み自由で家族と共に使いやすく配置している。タンスの上には家族写真やぬいぐるみ、飾り物を置いている。季節の衣服の入れ替えは、基本家族にお願いしているが、持ち込みが多い方は、一部事業所が預かっている。室内は整理・整頓され広い空間がある。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている。階段昇降機の設置。手すりの追加にて利用者様のニーズに対応している。介護ロボット導入にて安全に一人で移動できるように支援している。 | | | |